

やまゆり ニュース

vol.38



令和4年度 麻生区地域課題対応事業
令和4年10月1日発行

2022 10

麻生市民交流館やまゆり



11/1より募集開始

仲間づくり/

地域デビュー/

第2の人生を迎えるあなたに

目指せ！アクティブシニア講座

2023/1/14(土) ~ 2/11(土)

毎週土曜日
全5回開催



前回の講座の様子。熱心なディスカッションも行われた。

申し込み方法

11月1日応募開始。「やまゆり」や同館ホームページで配布されるチラシ裏面の受講応募用紙に必要事項を記入して、同館へ持参またはFAXでお送りください。

やまゆりホームページ:

<https://yamayuri.ne.jp/>



お問い合わせ: TEL 044-951-6321

FAX 044-951-6467



2023年は1月14日から2月11日まで、毎週土曜日に開きます。講師の話を聞くだけでなく、受講者同士のディスカッションも予定されています。仲間との交流は、きっとさまざまな成果を生むことでしょう。さあ、講座の輪に加わって、新たな暮らしのページを開いてみませんか。

これは、皆さんを地域社会への入り口にご案内する企画です。全5回のシリーズで、行政の担当者や市民活動の先輩など、さまざまな人たちに話をしてもらい、種々の活動を始めためのヒントにさせていただきます。地域デビュー、市民活動デビューのためのグートウェイというわけですね。なによりプラスになるのは、講座参加で仲間たちと出会うことでしょう。同じような立場にある仲間と一緒に、それだけ多くの可能性が広がります。何をすることも欠かせない仲間づくりが、ここへ来ればあつという間にできてしまうのです。

長い会社勤めを終えたり、子育てや家事の忙しさが一段落したところで、「さあ、地元での暮らしをもっと充実させよう」と思い立つ人は多いことでしょう。第二の人生を送るにあたっては、地域とのつながりを深めることが欠かせないのです。とはいえ、ではどうすればいいのかと、はたと考え込んでしまう人もまた、少なくないかもしれません。そこで大いに役立つのが、あさお市民活動サポートセンターが「麻生市民交流館やまゆり」で毎年開いている「目指せ！アクティブシニア講座」です。

やまゆりニュース vol.38 目次

- 2面 麻生の進展(2/3)
「しんゆり・芸術のまち」芸術・文化のまち麻生へ
- 3面 碩学の足跡—あさおの昔民俗学創始者も歩いた
- 3面 アミューズメント施設にGO!
小田急線がもっと好きになるミュージアム
- 4面 2023年度 区民講師募集
お役立ち情報
コロナ自主療養、
神奈川モデルとは

「しんゆり・芸術のまち」「芸術・文化のまち麻生」へ

麻生区が誕生した1982年の前年、農住都市構想でもって区画整理を行政と進めてきた農家地権者は、上物建設や管理運営の母体となる「新百合丘農住都市開発(株)」を設立。翌82年、「新百合丘駅周辺広域的街づくり推進協議会」が発足した。83年、新百合丘駅南口ペDESTリアンデッキ竣工。同年、南口の核テナントが「西武セゾングループ」に決定。84年、植栽・色彩等について基準が設けられ、街づくりが進む。86年、地権者は、区画整理事業費の果実(残余金)を街の共有財産として、街づくりのための基金として提供し、「財団法人川崎新都心街づくり財団」を設立した。

90年に「小田急アコルデ」、92年に「エルミロード」と専門店街「マブレ」が開業し、商業地が整えられていった。

一方、94年、西武セゾングループが南口の核テナントより撤退。95年、同地にビブレが建設発表、97年、「新百合丘ビブレ」(現・イオンスタイル新百合丘)として開業。同館にシネコン「フナーマイカル・シネマズ新百合丘」(現イオンシネマ新百合丘)を開設。同年、OPABI



モニュメントやペDESTリアンデッキが、「しんゆり・芸術のまち」を、1983年時点ですでに表していた(写真提供:株エリアブレイン)

ル建設完成。同ビル上層階に「ホテルモリノ」が開業。

それから10年。2007年4月、協和グラウンドの跡地に昭和音楽大学が移転。同年、駅北側に「川崎市アートセンター」開館。「しんゆり・芸術のまち」PR委員会発足。11年には、日本映画大学が開学した。

84年発表の「商業・業務マスタープラン」に、「文化・芸術活動の動線であるカルチャークロス」という表記がある。当初の志向が、ここで形となった。

そして2018年4月、新百合丘農住都市開発(株)、昭和音楽大学、日本映画大学、三井不動産(株)、小田急電鉄(株)の5者を幹事会員として、「新百合丘エリアマネジメントコンソーシアム」が設立。新百合丘のブランドアップを図っていく。

民俗学創始者も歩いた

全国の農山村を訪ね歩いて、その暮らしぶりや習俗、伝承などに光を当て、日本民俗学の創始者となった柳田國男(1875—1962)。記念碑的著作の「遠野物語」で知られる民俗学の泰斗は、この麻生の地にもしばしば足跡を記していた。

1940年から4年ほど、学会誌に連載された「水曜手帖」には、王禅寺の集落を歩いた紀行文がある。農家の大戸に「コノ手ノ子ドモハルス」の言葉が添えられた手形が貼られているのに目をとめ、こうした流行病除けの風習について振り返っている一文だ。当時は「たゞ物静かな山ふところ」だった農村の暮らしも、新たな学問をひらいた人物の目には興味深い研究対象として映っていたのだろう。

『昔』は斯ういふ処に埋没したまゝで、つひに発掘せられずにしまふものも多いことであらう」の記述には、いかにもこの人物らしい思いがにじんでいる。

当時、柳田は東京・世田谷の成城学園に住んでいた。小田急線沿線の郊外はフィールドワークを兼ねた格好の散策コースだったようで、「水曜手帖」には



のどかな農村だった往時をしのばせる風景。この径を柳田も歩いたかもしれない。

広袴、能ヶ谷、乞田、貝取など麻生区近隣の地名も出てくる。

「小田急にて柿生まで、あまり混んだので鶴川まで乗越し引かへす。(略)岡を越えて眞福寺へ。ヤトをまちがへて王禅寺の梅へは行けず、丘を越えて高石へ出で、西生田からかへる」

これは同時期に書かれた「炭焼日記」の記述である。名もないう「常民」の生活を通して日本文化の深奥へと分け入った柳田いまは住宅や大きなビルが建ち並ぶ街だが、碩学の幅広い視点を思い起こしながら歩いてみれば、またちよつと違う光景が見えてくるかもしれない。

小田急線がもっと好きになるミュージアム



右からLSE(7000形)★、NSE(3100形)、SE(3000形)。★以外は通路や座席まで見学可

2021年4月に小田急線海老名駅隣接地にオープンした「ロマンスカーミュージアム」。改札を出て徒歩約1分という抜群のアクセス。入館はネットからの事前予約制だが、空きがある場合には予約なしで入館することも可能だ。

1階には、歴代のロマンスカー5車種が展示されている。懐かしい車両を至近距離で見られるほか、実際になかに入って通路に立ったり、座席に座ったりできる車両もある。

2階には新宿から小田原、箱根、江の島までのランドマークを再現したジオラマが広がる。光の演出によって、日中から夜景へと移り変わる沿線の町並み。そのなかを小田急線が走り抜けていく様子をゆっくり眺めてみるのも一興だ。

ロマンスカーミュージアム

- 📍 神奈川県海老名市めぐみ町1-3
- ☎ 046-233-0909
- 🕒 10～17時(最終入館16時30分)
- 📅 第2・4火曜 ※季節により変更あり
- 🎫 中学生以上900円、小学生400円、3歳以上100円
- 🚶 小田急線「海老名駅」西口改札からすぐ
- 🅐 なし
- 🌐 www.odakyu.jp/romancecarmuseum/

ロマンスカーシミュレーター体験は当日先着順で受付。早めの時間に入館して予約をしておくのがおすすめ



細部まで作り込まれているジオラマ。「藤子・F・不二雄ミュージアム」の奥には新百合ヶ丘エルミロードも建っている

入館しなくても利用できる入口脇のカフェには、ロマンスカーをプリントしたオリジナルのケーキやドリンクもある。

コロナ自主療養、神奈川モデルとは

現在、県は新型コロナウイルスに関して神奈川モデルといわれる自主療養届出制度を採っている。その理由は、医療現場のひっ迫を回避し、重症化リスクの高い65歳以上の高齢者、40歳以上64歳以下で基礎疾患のある人、2歳未満や妊婦に、医療資源を集中するためである。これらの人が自宅療養になった場合は、専用アプリ(注)に登録するとLINEやAIコールで日々の健康観察を受けられる。

一方、2歳以上39歳以下、40歳以上64歳以下で基礎疾患がない人には、発熱があつて抗原検査キットの自主検査で陽性になつても、医療機関を利用せずに自宅での療養を推奨。その場合、専用アプリに登録すると療養開始通知や回復した際には療養証明書が受け取れる。無

症状の場合の自主療養期間は5日、症状がある場合は7日が求められる。なお、体調が悪化したら、従来通りの手順で医療機関を受診する。

また、専用アプリに登録すると、審査の結果、食料品の入手が困難と判断された人には、パックご飯、レトルト食品などの食料品8日分およびトイレシートペーパーなどの日用品が配送される。

いずれにせよ、密を避け、適切にマスクを着用し、手洗い・消毒をして感染しない・させないことが重要である。家庭内感染の割合が増えており、時期がきたらワクチンを接種し、重症化のリスクを回避することを薦める。

(注)県の自主療養届出システムから入手可能



医療現場のひっ迫を避けるために



高齢者などは専用アプリで日々の健康観察を受ける



必要な人は支援が受けられる

2023年度 第13回 区民講師 募集

知見・特技・経験・体験

あなたの得意なことを 披露 しませんか！

経験豊富な「やまゆり」のスタッフが、開講当日までサポートします！
本講座は12回を重ね、今まで約150人の講師がデビューしています。



認定NPO法人あさお市民活動サポートセンターでは、2023年度の区民講師を募集しています。麻生区には素晴らしい技術や経験を持った人たちが多くいるに違いありません。その方々に講師になって頂きその特技やノウハウを披露して頂くというのが講座の目的です。たくさんの方の応募をお待ちしています。

Q 区民講師は、何をしますのか？

A 2023年4～6月に、「やまゆり」で講座を開くことができます。講座は一回限定ですが、これをきっかけに、区民サークルなどで継続的に活動する方もいます。



Q 本格的な知識や技術はないのですが…？

A 人よりチョットだけ詳しい話題や技があればOKです。資格も免許も必要ありません。講座開講当日まで、「やまゆり」のスタッフがサポートいたします。



応募者対象 説明会

日時： 2022年 **11月14日** (月) 18～19時

場所： 麻生市民交流館やまゆり 会議室

応募される方は、募集チラシ裏面の「参加申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。チラシは図書館等の配架場所か、やまゆりHP (<https://yamayuri.ne.jp>か右下QRコードより) よりダウンロードください。

申込締切： 2022年**11月11日** (金)

【問合せ先】TEL：044-951-6321 麻生市民交流館やまゆり 区民講師公開講座係



麻生市民交流館やまゆり



ホームページ更新中 ▶▶▶



開館日	月～金 9:30～17:00 平日の夜間 ～20:15 ※土・日・祝日も予約をすれば利用可
休館日	年末年始、施設点検日
アクセス	小田急線「新百合ヶ丘」駅南口から徒歩4分
住所	〒215-0021 川崎市麻生区上麻生1-11-5
TEL	044-951-6321

